

令和5年度 英語教育実践研究校報告書

早稲田中学校区

1 学校の課題

令和4年度の児童生徒アンケートの結果から、中学校では「ALTによる英語の授業では、間違えることを恐れず積極的に自分の考えなどを話している」について、肯定的に回答する割合が44.4%であり、正しい英語で話さなければならないという意識が強く、間違えることを恐れている結果、英語で自分の考えを英語で話すことを苦手とする生徒が多い。小学校では「英語の授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で話しています」について、とてもよくあてはまると回答した児童が29%であり、他の項目に比べて著しく低くなっている。小・中学校共に「自分の考えや気持ちなどを英語で話す」ことが課題としてあげられ、授業づくりについて、より具体的に事例を共有し、小・中で課題解決に向けて取り組む必要がある。

2 研究主題

自分の思いや考えを英語で主体的に発信する生徒の育成
ー思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりと小中連携を通してー

3 取組内容

- (1) 英語授業の充実
 - ・ ALTの活用
ALTを各学級に、中学校1～3年生で週2～4回配置し、コミュニケーション能力の向上に努めてきた。ALTとの会話によるやり取りを中心とした授業を構成し、教科書以外の教材も使用しながら、英語を使用する場面や状況を意識した授業改善に取り組んだ。
 - ・ 英語力の検証
年2回のインタビューテスト及び標準学力調査、アンケートを実施し、生徒の英語力と学習への変容を測った。インタビューテストにおいて英検3級程度の問題を活用し、「話すこと」に係る力をALTが測定した。
 - ・ 授業改善
教科会を定期的に関き、授業改善（特に、目的・場面・状況を設定した発信型の授業づくり）の交流や、授業向上に向けて授業研究や協議会を行い授業改善に努めてきた。各学年、単元目標は「発信型」を目指しデザインし、パフォーマンステストを実施した。
- (2) 英語を使う場の多様化
 - ・ English Roomの効果的な活用
English Roomを活用した取組として、昼休憩の教室を開放してALTと会話を楽しめる場とした。季節行事を開催し、海外の文化に触れる場としても活用した。
 - ・ 英語掲示板の活用
毎月季節にあった掲示物や、外国や日本の行事、文化に関する掲示物をALTが作成し、生徒が自分たちの考えやアイデアを表現したり、生徒同士の考えやアイデアを異学年で交流したりする場として活用した。
 - ・ 英語を使った探究活動の実施
総合的な学習の時間を活用し、小学6年生を対象にした「早稲田中学校オープンスクール」において、中学3年生が英語を使う場を設定した。中学生が小学生の各グループに中学校の生活、授業、行事、部活動などについて説明を行った。
 - ・ 昼食放送
放送委員が毎日行う昼食放送を英語で行った。放送の中で、給食メニューの紹介の他、海外の文化や行事に関するクイズや、曲紹介なども取り入れ、昼食時間を生徒が英語や海外の文化に触れる時間とした。

(3) 学習支援

- デジタル教材の活用
タブレットの録画機能を使用し、個人やペア、グループで発表の練習や振り返りをさせた。また、パフォーマンステストなどスピーチやグループでの発表の際、伝えたい内容を整理し、スライドを作成し、スライドを活用しながら発表させた。
- 教育支援システムの活用
パフォーマンス課題（英作文やスピーチ、グループプレゼンテーションの動画等）を、教育支援システムを通じて提出させ、評価・助言を行った。

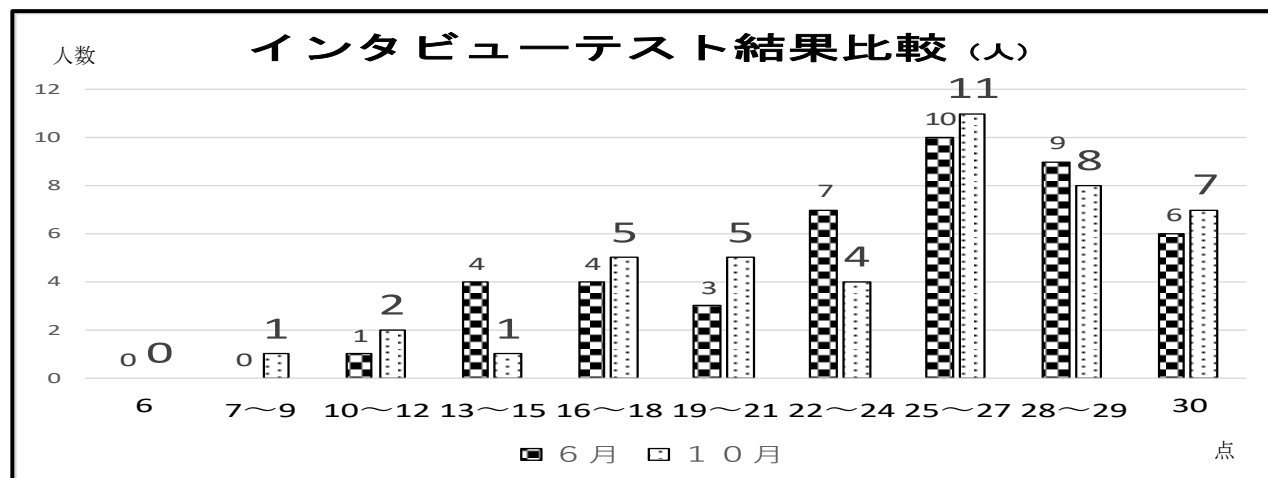
(4) 小中連携

- 小中担当教員の連携
「全ての児童・生徒が積極的に考え、表現する授業づくり」を軸とし、自分の思いや考えを英語で主体的に発信する児童・生徒の育成を目指し、授業改善に取り組んでいる。小・中学校の英語教員で打合せや連絡を密にとり、双方の授業を参観する機会を年度当初に設け、言語活動や評価、英語力の定着度合を把握・確認し、指導や授業改善に繋げることができた。また、中学校区で共通の「CAN-DO リスト」を作成し、9年間を通じて児童・生徒に付けさせたい英語の力を共有した。
ALTが小学校に定期的に出向く機会を設け、インタビューテストや授業、英語クラブに参加するなどした。小学校の児童にとっても英語を使って外国の人と話せる・通じるという経験になり、英語を伝えたいと思う意欲に繋がっている。

4 検証結果

<中学校>

(1) インタビューテスト（2学年生徒対象：6月・10月実施）



(2) 生徒アンケート（2・3学年生徒対象：令和4年度からの推移）

10 英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。

令和4年度1年生：87.5 → 82.2 (平均84.9%) → 現2年生：87.0 → 90.9 (平均89.0%)

令和4年度2年生：63.4 → 57.6 (平均60.5%) → 現3年生：74.4 → 75.6 (平均75.0%)

13 ALTによる英語の授業では、回答したり意見を述べ合ったりなどしています。

令和4年度1年生：73.0 → 44.4 (平均58.7%) → 現2年生：67.4 → 70.5 (平均69.0%)

令和4年度2年生：39.0 → 36.4 (平均37.7%) → 現3年生：46.2 → 51.2 (平均48.7%)

14 ALTによる英語の授業では、間違ふことを恐れず積極的に自分の考えなどを話しています。

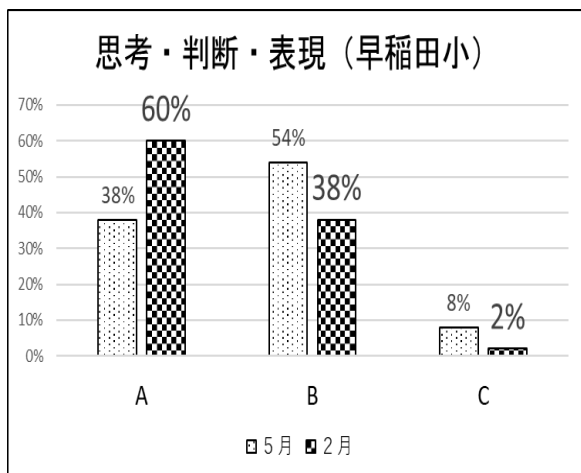
令和4年度1年生：77.0 → 64.4 (平均70.7%) → 現2年生：82.6 → 84.1 (平均83.3%)

令和4年度2年生：51.2 → 48.5 (平均49.8%) → 現3年生：71.8 → 61.0 (平均66.4%)

<小学校>

(1) インタビューテスト (5・6学年対象：5・2月実施)

※ALTと1対1で、1分間のインタビューを実施



	A	B	C
5月	38%	54%	8%
2月	60%	38%	2%

評価基準

	観点	A	B	C
思考 判断 表現	目的・場面・状況に応じた表現内容	自然な流れで相手に質問をしたり、自分自身のことを十分に伝えることができる。	自然な流れで相手に質問したり、自分自身のことを伝えることができる。	自然な流れで相手に質問したり、自分自身のことを伝えることができていない。

(2) 児童アンケート (5・6学年対象：5・2月実施)

- ① 英語の学習は好きです。
- ② 英語の授業は楽しいです。
- ③ 英語の授業では、友達や先生と進んで英語でやり取りしています。
- ④ 英語の授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で話しています。
- ⑤ 学習した英語を使ってみたいと思います。
- ⑥ 外国の人と話してみたいと思います。
- ⑦ 自分の言いたいことを英語でどう言うか調べてみたいです。
- ⑧ 英語の授業を通して、友達と仲良くなったり、友達のことを知ることができたりしました。
- ⑨ 日本語と英語の違いや共通点を見つけるなど、ことばのしくみやきまりに興味をもつようになりました。
- ⑩ 4月に比べて英語の力が伸びていると感じます。

4	3	2	1	
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
①	51	41	14	2
②	59	37	10	2
③	50	45	12	1
④	57	38	10	3
⑤	62	30	13	3
⑥	63	28	15	2
⑦	51	39	17	1
⑧	49	36	19	4
⑨	30	54	19	5

4	3	2	1	
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
①	29	54	15	7
②	41	45	12	7
③	59	37	8	1
④	58	32	13	2
⑤	58	37	9	1
⑥	40	35	25	5
⑦	49	38	15	3
⑧	42	44	16	3
⑨	31	57	13	4
⑩	82	16	6	1

5 研究成果

(1) 成果と課題

① インタビューテストの結果から

<中学校>

◎ インタビューテストを受けた生徒44名のうち、25~30点を取る生徒の割合は1回目25名、2回目26名と全体の56%~59%を占めており、正確に応答できる生徒の割合が多い。単元目標を発信型として設定し、自分の考えや思いを英語で表現する時間を意識的に設けたことに効果があった。

▲ 7~15点を取る生徒の割合は1回目、2回目で変化しておらず、自分の間違いに気づかせ、正確性を求める手立てが求められる。

<小学校>

◎ 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」すべての観点で、5月よりAの数値が上昇している。特に、「思考力・判断力・表現力」の観点で大きく数値が上がっている。その要因の一つとして、4人グループで、ALT役・児童役・アドバイザー役に分担し、互いに高めあい、英文や伝え方、声の大きさなどをレベルアップできたことが成果につながったと考えられる。また1回目に使った自己紹介アピールを記録として残していたこと、それを基に、2回目に向けて準備を進めたことも結果につながっている。

② 児童生徒アンケートの結果から

<中学校>

◎ 「思考力・判断力・表現力」に関連する項目「自己開示」「積極性」に関して、単元目標を発信型として設定し、言語活動に取り組みさせたことで、昨年度と比べ数値が上昇している。「英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話している」について、肯定的に回答する生徒の割合が現2年生では平均84.9%から89.0%、現3年生では平均60.5%から75.0%と上昇している。また、「ALTによる英語の授業では、間違えることを恐れずに積極的に自分の考えなどを話している」について、肯定的に回答する生徒の割合が現2年生では平均70.7%から83.3%、現3年生では平均49.8%から66.4%と上昇している。

<小学校>

◎ 「4月に比べて英語の力が伸びていると感じます」について、90%の児童が肯定的な回答をしている。学習した英語を使ってみたい」についても肯定的な回答が高い。ALTと様々な場面で関わることやタブレットの使用が結果に繋がっている。

▲ 「英語の学習は好きです。」「英語の授業は楽しいです」について、よくあてはまると回答した児童の割合が、47%から28%、55%から39%に低下している。

▲ 「外国の人と話をしてみたいと思います」について、よくあてはまると回答した児童の割合が58%から38%へ低下している。ALTとのつながりがある中で、やはり苦手意識の克服に至っていない。

(2) 今後の取組

【英語授業の充実】

英語による言語活動を中心に展開する授業の中で、「実生活とのつながりや、誰と何のために」というリアルなコミュニケーションを生徒に実感させる場面を充実させていく必要がある。ALTと協働し、世界で起きていること、生徒自身にも密接に関わることについて、リアルな世界につながる教材を授業で取り入れ、英語を使う場面や状況を設定し、目的意識を持って英語を表現できるように言語活動を充実させていきたい。

【英語を使う場の多様化】

「英語を使っているいろいろな人とコミュニケーションしたい」と思う生徒を増やすため、授業内外においても、生徒が英語を使ってみたり、交流したりする機会をより多く設定する必要がある。English Roomを活用した放課後等の取組や「早稲田中学校オープンスクール」における取組を充実させるとともに、中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」、スピーチコンテストといった各種活動への参加を促したい。

【学習支援】

ICTを用いて自分の英語表現等を録画することで自己調整が可能になること、スライドを用いたプレゼンテーション、音声面における個に応じた指導など、さらに実践研究に取り組み、効果的な活用について事例をまとめる。

【小中連携】

小学校から中学校への円滑な接続を実現させるため、小中教員で授業を参観・交流する機会を増やし、児童生徒のモチベーションを維持させていく。CAN-DO リストを基に、小・中での題材や言語活動を知り、指導法の継続性を図りたい。

早稲田中学校における取組等の詳細はこちら



早稲田中学校区の小学校における取組等の詳細はこちら

